

1. 研究活動

<p>[著書] (共著) 『ベケットを見る八つの方法—批評のボーダレス』</p>	<p>2013. 3</p>	<p>水声社</p>	<p>本書は、2006年9月29日～10月1日にかけて、早稲田大学国際会議場で行われた国際サミュエル・ベケットシンポジウムの成果がまとめられたものである。岡室美奈子・川島健編。「内省と統括のキアスムー『名づけえぬもの』と『反古草紙』における光・言葉・主体」というタイトルで、125～140頁に拙論が掲載された。</p>
<p>[翻訳書] (単訳) ミシェル・フーコー 『レイモン・アロンとの対話』</p>	<p>2013. 6</p>	<p>水声社</p>	<p>ミシェル・フーコーは『言葉と物』の出版直後に、社会学者のレイモン・アロンとラジオで対談を行っている。本書は、その対話と、ジャン＝フランソワ・ベールによる詳細な解説からなる。本書を翻訳し、巻末に「訳者あとがき」とフーコー／アロンの対照略年表を付した。</p>
<p>[翻訳] (単訳) ブリュノ・クレマン「ところでこれは何の声?」</p>	<p>2013. 6</p>	<p>水声社</p>	<p>『ベケットを見る八つの方法』の111～124頁所収。パリ第八大学教授ブリュノ・クレマン氏によるベケット作品の「声」に関する論文の翻訳。</p>
<p>[翻訳] (単訳) ブリュノ・クレマン「ベケットと哲学者たち 哲学者たちとベケット」</p>	<p>2013. 6</p>	<p>水声社</p>	<p>関東学院大学の郷原佳以准教授による外国人招聘研究者事業（日本学術振興会）の主催で、ブリュノ・クレマンパリ大学教授の連続講演会が行われた。 本学では、3月11日にベケットと哲学に関する講演が行われ、講演内容の翻訳を載せたハンドアウトを出席者に配布した。</p>
<p>[翻訳] (単訳) ジャン＝ルイ・マンサール 作曲「歌とピアノのための「4つのメロディー」より 第四曲「夜が抱く夢」</p>	<p>2013. 5</p>	<p>名古屋芸術大学</p>	<p>2013年5月9日に音楽学部の主催でパリエコール・ノルマルとの交流作品演奏会が行われ、ジャン＝ルイ・マンサール氏の歌曲の翻訳を担当した。</p>

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 フランス語 I, II		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
フランス語を学び初めて一年目の学生が、テキストにもとづいて実際に外国語を用いる場面を想像し、各々のシチュエーションに合わせて簡単な会話が行えるように導いた。作文や小テストを通して正確な綴りを習得すると共に、毎授業の最後にテキストの重要表現を含むフレンチポップスを聴いて実際に声に出すことで、フランス語の音に慣れるよう工夫した。最終的に口頭試験を行うことで、フランス語の美しい響きに関心を持ってもらうように心がけた。	教科書・自作のプリント・視聴覚教材	
授業科目 フランス語 III		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
既習者を対象に、様々なシチュエーションを想定した応用練習を行った。簡単な挨拶や指示はフランス語で行うことで、自然な発音を身につける工夫を行った。随時、重要単語や文法事項を解説したプリントを配布した。	教科書・自作のプリント・視聴覚教材	
授業科目 異文化入門		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回自作のプリントを用いて、様々なテーマ（家族関係、文学、美術、音楽、料理、身体性、ポップカルチャー等）に焦点を当て、日本とフランスの文化の共通点と相違点を浮き彫りにした。最初の授業で学生が特に興味を持っているテーマを聞き、それと関連した授業が行えるよう工夫した。数回の授業ごとにレポートを課すことで、学生が互いに意見を交換する場を与え、異文化の問題を身近に感じる機会を与えた。	自作のプリント・視聴覚教材	

3. 学会等および社会における主な活動

早稲田大学グローバル COE	2007. 4～2012. 3	研究協力者
日本フランス語フランス文学会	1997. 4～現在	会員
日本サミュエル・ベケット研究会	1996. 4～現在	会員
日本比較文学会	1999. 4～現在	会員